

俳句文学館

発行所 社団法人 俳人協会
東京都新宿区 百人町3-28-10
郵便番号 160
電話 (03) 367-6621 (代)
発行人 草野 時彦
定価 100円 (送料別)
(年 1,000円 送料 300円)
振替口座 東京 6-273 番

現代俳句選集 編集始まる

第六集

現代俳句選集 第六集	俳人協会編
現代俳句選集 第五集	俳人協会編
現代俳句選集 第四集	俳人協会編
現代俳句選集 第三集	俳人協会編
現代俳句選集 第二集	俳人協会編
現代俳句選集 第一集	俳人協会編

A5判、一五〇〇ページ

「現代俳句選集」第六集の編集委員会は今年四月に発足し、これまで二次にわたる編集会議をひらいて、第六集編集にあたって必要な打ち合わせ事項を討議している。

第一次会議では、これまでの選集の資料性を重視し集に対する見解を各自の立場から、たもの一部を改正するに考のべたことと討議に入り、基本的に一人十五句の出句は第五集の体裁を大幅に変更する。数に十二句におさえ、その余白に必要事項として、

一、原稿校正の基準を設ける案
二、校閲委員を設ける案
三、原稿校正の分担案
四、その他(新季題の扱い等)

①用字(新季題の扱い等)
②校閲委員の選定案
③原稿校正の分担案
④その他(新季題の扱い等)

メンバーが各社誌の編集部に属するところから、毎回、教壇にわたる熱心な討議が繰返えされた。とくに、用字(新季題の扱い等)については、フリーな発言をたてまえたこととあつて、議論百出して熱気があふれたが、最終的には作者の個性を尊重する方針が打ち出され、体裁上の最低の統一をはかるほかはすべて作者の意向を生かすことになった。そのため編集上のいろいろな課題を処理する機関として校閲小委員会を設け、この最終結論を出すこととし、近々この委員会を発足させることに決定、原稿の集り次第作業に入るにしている。

俳人協会の創立が昭和三十六年十一月であるから、この選集が完成する昭和五十五年には、二十周年を迎えるわけだ。「現代俳句選集」第一集が昭和三十九年十一月、A5判一五〇〇ページを思いついたアソローを出したのを、この選集がA5判一五〇〇ページを思いついたアソローが、理事でも慎重に検討して、たてまえた。総頁一五〇〇頁を超えるもので、これに昭和五十二年から五十二年までの作品の中から選ばれた一八十二句ですから、あまたの秀作が見えてくるものと期待しております。とにかこのアソローが今回の俳句界を占めるに足る第一級の資料となることは疑いようがないようです。世間にはすぐれた個人句集も多く刊行されていますが、おのずから部数

一人十二句、資料性を重視



原 裕氏

原裕編集委員長の談話
「現代俳句選集」への出句のチャンスは三年一度です。アソローの参加をお願いしたい。今回は個人負担の軽減をはかるため、理事でも慎重に検討して、たてまえた。総頁一五〇〇頁を超えるもので、これに昭和五十二年から五十二年までの作品の中から選ばれた一八十二句ですから、あまたの秀作が見えてくるものと期待しております。とにかこのアソローが今回の俳句界を占めるに足る第一級の資料となることは疑いようがないようです。世間にはすぐれた個人句集も多く刊行されていますが、おのずから部数

八月集

箱根湿生花園 大津 希水東 京
ひめがまは穂に湿原の水暗し
ささ草のむるるあわれに山日和
湿生園ひた澄む水にひつじ草

ドレミファの唄 成瀬櫻枝子 東京
ポンポンタリアドレミファの唄が覚え
老残の雷破れ太鼓打つ
剣かコーランかグリアの一火花の玉に

濃葉陽花 向野 楠葉北九州
口述になりし遺句集濃葉陽花
古備前の火櫓走り庭の梅雨
白秋の生家は訪はず蘭刈見る

萩 森田 幹宝 塚
松蔭の書をは、かるか紙魚之し
藩廟の道にむらがる羽蟻かな
藩廟の藤了らんとこぼれやむ

高岳 村上 冬燕名古屋
雪の残汚れつくして融けるたり
雪溪の端深き谷示す
高岳の賽の河原に残る雪

「俳句文学館」は本号で二〇〇号に達した。もう一つ「俳句文学館」を改題し、現在のような体裁にして月刊に踏み切ったのは五十二年七月からで、それまでは単に「俳人協会報」としてA5判の、それも隔月だった三月に一回だった。その「俳人協会報」は三十七年五月、第一号を刊行した。一七年前である。その前年の十二月、俳人協会は設立総会を行っていた。

創刊当時の思い出

安住 敦

36年10月某日、角川源義から電話をもらった。行ってみると、現代俳句協会の選考をめぐりいゆる前編派と意見が正面からぶつかり自分たちは撤退に決めた。ついでには少数の同志で別な会を作ろうと思つたことだった。そのとき誰々が居合わせたか記憶に定かでない。実はその前々とは一足先に協会を退いていた。だから協会選考のさむきも知らなかった。わたくしが協会をやめたのは、伝統一前を俳人協会とするので、事務所を角川書店にお



安住 敦

ねばならない。そうした意味で選集の意義は大きいと思われ、今日のようないい作品傾向で、今更なるアソローの1の評価は慎重にならざるべきかとおもわれる。

俳人協会の諸事業が活発となり、全国大会、地方大会、各地懇親会等の行事に結果する会員の人々が多くなったが、そうした交流を通じて何よりも大切なことはお互い、表現にも工夫が凝らされている。その傾向が多岐に亘っている。わが協会の会員は伝統を重んじているので、その点では同じであるが、作者の個性は各々がうし、表現にも工夫が凝らされている。その傾向が多岐に亘っている。わが協会の会員は伝統を重んじているので、その点では同じであるが、作者の個性は各々がうし、表現にも工夫が凝らされている。

水原秋櫻子全集

講談社版 全二十一巻
全巻完結 好評発売中
定価各巻 2,900円

第一巻 句集一	第八巻 日記	第十五巻 俳句作法
第二巻 句集二	第九巻 鑑賞一	第十六巻 随筆一
第三巻 句集三	第十巻 鑑賞二	第十七巻 随筆二
第四巻 句集四	第十一巻 鑑賞三	第十八巻 紀行
第五巻 句集五	第十二巻 芸術論	第十九巻 自伝回想
第六巻 句集六	第十三巻 句自解	第二十巻 古典研究一
第七巻 句集七	第十四巻 入門・吟行	第二十一巻 古典研究二・雑纂

講談社

定本 松本たかし全集 全四巻

A5判・豪華特装本
定価 各巻 3000円
送料 各巻 240円

第一巻 松本たかし句集 鷹野守 石魂 火明
第二巻 えごの花 鉄輪 俳能談 松本たかし集 創作 俳諧詩
第三巻 俳句補遺 文章 日記 年譜
第四巻 茅舎研究 雑論 対談・鼎談・座談 書簡

竹頭社

〒101 東京都千代田区神田錦町3-6 神田事務所 TEL 03-293-7231-3
〒141 東京都品川区北品川5-7-17 品川事務所 TEL 03-443-6781-4

特別講座「現代俳句の歩み」

今秋第一期 四Sとその周辺

俳人協会では来る九月十九日より、俳句文学館で特別講座「現代俳句の歩み」を開講する。この講座は昭和初年より現代に至る俳句の歴史を学ぶもので、第一期としては「四Sとその周辺」と題して、四S、青歌、子歌、秋歌、素句、新選風生、杉田久女を学ぶことになっている。(別掲広告参照) なお、第一期については、第二期は月中旬より「昭和十年代の俳句」と題して、石田波郷・中村草田男・加藤樹・川端琴舎・松本たかしなどがテーマとなる。第三期は「戦後俳句」の手定である。また、第三期終了後、来年の秋頃より「近代俳句の歩み」と題して子規から鬼城・蛇笥までを講じる予定である。

10氏に決まる

俳人協会評論賞 選考委員

俳人協会は七月七日の理事会で先般、会長に任じた俳人協会評論賞の選考委員を次の通り決定した。 安住敦 大野林火 清藤敏郎 草間時彦 香西照雄 沢木欣一 龍村登四郎 平畑静雄 古藤曹人 村山古郷

天然記念物の「妙蓮」

—金沢市・持明院— 井上 雪

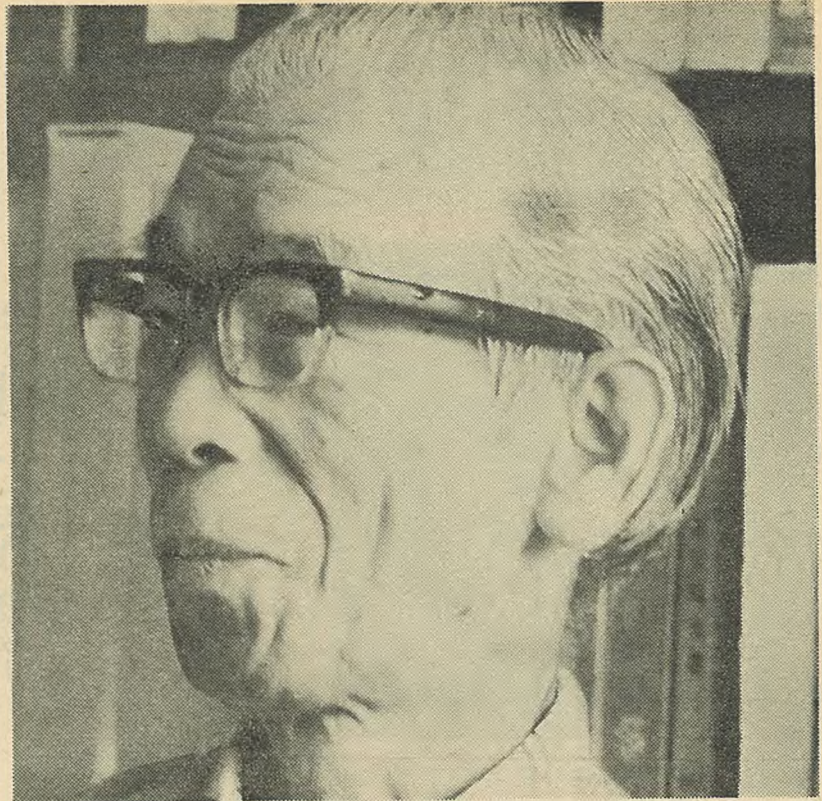
珍しい花を紹介いたします。 八月の旧盆ちかくに「妙蓮」という名前の蓮が咲きました。日本ではたぶん一つ現存する、多頭蓮の代表的な品種です。



千枚から三枚にもなり、しかもこの花の特徴として、全く一片の花弁も散らさずに、咲いた花の形をそのままに枯れることです。 一花がひらき初めてから三週間も日をかけて咲くの妙蓮は、弘法大師が入唐求法の時、インドの僧、般若三摩多羅(おぼろ)が弘仁年間北越した時、この地にこの花を植えたといわれています。 珍しいも、美しいも、実がならず、すべてが花弁になる不思議な蓮で、ごぞ金の持明院の池に賞でございませう。



岸風三樓



潔癖で豊かな創造性

何んと癖しへ、何んと癖しへ 何んと癖しへ、何んと癖しへ。いふ分かついてるよ、ある日突然にして一喝怒聲を浴びせられる。 何んと癖しへ、二塵と近寄るまいと思つてゐるぢやない、ことば無しに、にじり寄り、引は、熱情家で、正義感に強く、ききせられてゐる私である。編中途半端な愛蔵を許さなさい。一 見道にも思われるが、ひとた「風塵」の風貌を見ながら最「月号」も日本人的風貌を見せる歳月 七月某日、私は、足の踏傷

寸樹庵由来

米沢吾亦紅の豊中の住居は寸樹庵といふ。玄関に「寸樹庵」といふ虚子筆の横額がかけてある。昭和三年、学業を終えた吾亦紅が大坂の造船所に職を得た。数年後、たまたま大阪に来た虚子に頼んで書いてもらったものだという。 「揮毫 寸樹庵」とある。流石の某俳人も床の間に掲げることができなかったといふ。 その寸樹庵の半切は、吾亦紅が寸樹庵の由来を語ったかたが、現在大蔵蔵の手許にある。大蔵蔵は、寸樹庵の手許にある。大蔵蔵は、寸樹庵の手許にある。



吾亦紅は、寸樹庵の手許にある。大蔵蔵は、寸樹庵の手許にある。大蔵蔵は、寸樹庵の手許にある。

けん玉のおすすめ 原帆 白 けん玉はリズム運動で、バランスを保ちながら行なうけん玉技です。いつでも手軽に楽しめます。健康法として知られる「明日のために今日を大事にするか」と。 烈日下に咲く向日葵のような人である。(文・写真 島山 謙二)

若葉六号記念出版(写真集) 風生句碑 八月下旬 刊行 B5判。一五〇頁。函入上製本 定価 八、〇〇〇円 送料 三〇〇円

自註現代俳句シリーズ 第二十四期 四十冊 既刊(五十音順) 井沢正江集・石原丹月集・石城登石集...

俳句文学館紀要研究論文集 枚数 三〇五枚(四百字詰) 締切 八月十日 備考 未発表限り、テーマは明治以後の俳句学研究...

山梨県に... 申込先 若葉社 千177 東京都練馬区東大泉2-3-4 電話 九二四一-1541

沖繩本島も北の国頭へくが... 沖繩本島も北の国頭へくが、つよに来た息子を並んで立...

井桁 白陶... 「白雲白」といふも紅ほの... 「花衣ぬめやまはる紐のこ...

随想... 素材はものである。堅牢な手法... 沖繩の夏鷹... 鳥越 すみこ

村の助産婦さんがきてくれ... 沖繩の夏鷹... 鳥越 すみこ

伊藤 文緒... 交換しても交際しきとを... 藤原 昇

宮岡 計次... 五月下旬、良寛史蹟を訪ね、島... 林 徹

鳥越 すみこ... 彼を伴った今回の旅である... 沖繩の夏鷹

沖繩の夏鷹... 鳥越 すみこ

対象作品... 七月号(九九号) 掲載者名

百名の出席者を得て... 島根県俳句協会総会

沖繩の夏鷹... 鳥越 すみこ

沖繩の夏鷹... 鳥越 すみこ

真剣味溢れる... 作品重点の姿勢

創刊号物語... 松崎 鉄之介

山梨県に... 多田裕計句碑

宮崎親観之行俳句会... 関西支部会員の集い

第18回全国俳句大会案内... 日時 九月八日(土)午後一時より

第一回山形県俳句大会のお知らせ... 日時 昭和五十四年八月二十六日(日) 正午開会

宮崎親観之行俳句会... 日時 九月二十三日午後一時より

関西支部会員の集い... 日時 九月二十九日(土)午後一時より

玉によつて生まれ健康の... けん玉選手権大会が行われ

俳句のしるし

昭和三十六年「俳句研究」十月の向日葵であるところが特色が秀所載、「向日葵に對する」。句集「雑草園」の垣根に沿って数本の「雑草」所収。

向日葵の花は太陽を巡って回るといふ俗説がある。北アメリカ原産のこの大輪の花は、欧米では賞用よりもむしろ油を採るために栽培される。ゴッホの描く向日葵は情熱と意欲に満ちている。向日葵は元来太陽の花なのである。向日葵は、この句の場合は月下

八月

向日葵の月に昂然たる一花

山口 青邨

この年、青邨は古稀を迎えていた。向日葵が咲いた。そしていまは遙々たる月光に黄を失い、中天に背をたてた。昭和十八年大学を退官してより十年、雑草園に静かな文筆生活の日を送っていた。

(古語 曹人)



山口

季節の窓

芙蓉

蓮花一葉の夢のはかなきはアオイ科の宿根である。これは灌木ながら、根元から生ずるときは、一年生二年生の草木と同じ生きざまなのがおかしい。芙蓉の幹(富岳)芙蓉の葉と延びしつゝ開花の頃の高さを身を屈せずして行人の目を驚かすまでと異れる程なのが佳い。露

もの代名詞にされて来たのに、はそれだけの理由が無くはな

あつた白い花が、夕吹く風にそわわて紅をさし初めに鮮

紅色を呈するさまを、酔芙蓉と名付け、好事家の愛慕するところなることも、芙蓉の顔と

言ふ擬人的形容詞をふまえて初めて納得出来るものである。

画と文・赤堀 秋荷

鉄の都、で初の懇親の催しを開く

「福岡県会員の集い」

漸く梅雨の兆した六月十七日、俳人協会主催の「福岡県会員の集い」が北九州市八幡東区の高炉台公園を前にした、北九州市勤労者会館において、協会より福岡県俳人協会の理事、ならびに宮下理事事務局長の両講師を迎えて開催された。

協会が主催した福岡県内における近年の催しは、四十六年に北九州市で開催した九州地区大会、それに昨年二月筑紫の大宰府で四百名を超える出席を得た大会であった。福岡県懇親会の手が、今回は特に協会の手に、県内では初めての催しであった。

福岡県は多くの著名俳人を生んだ風土があつて、今日でも各地に愛好団体が多く盛んである。従つて協会員は百五十名を超えているのであるが、今回の催しでは折衝しつゝの団体において結社行事が行われたことがあつて、出席者はやや少な五十一名であつた。

しかし今回の催しの成果として、①地方在住会員として懇親会存在である協会を身近に感じ得たこと、②協会及び俳句文学館の現

況等につき情報を得る機会となつたこと、③日頃は結社内活動のみで終始しがちであることから出た、会員の横のつながりを持ち得たこと、④ゆめゆめ県協会を結成し、県俳壇の振興を図るべきとの気運が高まったこと……など少なからぬ収穫を得た会であった。

午後一時予定地開会、まず実行委員会事務局長長尾玉草(地平主宰)よりの経過説明、実行委員長長野楠葉(木の実主宰)より開会の挨拶が述べられたのち、講演に移った。講演は福岡俳壇の発展による「四季雑感」と題して、鋭い自然観を破壊し幾多の生物を死滅に追い込む人間の傲慢さは、自らを尊ぶべきものではない、自然の尊厳を尊重すべきこと、結核、一同は傾聴した。

また宮下講師からは、協会及び俳句文学館の運営表態、近況などについての詳報があつた。

このあと持ち寄り雑談二行による句会を行ない、両講師の特選各三句、地元選者各六句の特選各一、おとび選者各五句の選定による高得票一位二十位を決定して表彰を行なつた。

野見山ひふみ評議員(兼兼火主宰)の閉会の挨拶によつて、本会会受を終了。引續き懇親会に移り両講師を囲んでの対談と会員相互の交流が行なつた。

長谷川画展(中央区銀座七十一)電話〇三二一五七二(一四六)

経理部よりおねがい

「送金の際は」
協会の諸様におねがい、協会費および現代俳句選集(第六集)代金、その他の送金の際は、協会名簿に登録されているお名前でおねがいいたします。
特に本名と併記の全く違つた方は、毎回係りが「いな、いな」と探し回つておま

交款を行なつた。今後は努めてこのような機会を持つことを申し合せて有意義な一日を終り解散した。
(岸原清行・報)

編集室から

七月月号は誤植が多て申しわけなかつた。人名と日付だけは間違わないように特に注意していただいたが、関西会員の集いの日を誤記してしまつた。また、西山さん(西山泊雲の子)と、家業を継いで丹波の「小鼓」とは、酒造つていられた。小鼓は、昔、ホトトギス発行所で取扱つていたので、有名その「小鼓」の名を取つて小鼓子と名乗る西山さんの名を間違えたのだから申しわけない次第である。

筆者は先年、丹波篠山を訪れてその小鼓を賞味した。佳い酒造つた。「泊雲の酒造りぬめぬ雪」がそのときの拙句である。

三年目の「現代俳句選集」第六集の編集が始まるので、そのことを原編集委員長から取材した。

新会員の紹介は来月号にまとめて掲載する。秋は何か行事が多い。広告欄も注意して読み願ひたい。

本号は俳人協会報として百頁である。創刊当時の編集の安住敦副会長から思い出し、文を頂戴した。暑さの折、ご自愛をくれぐれも祈る。

夏負けをせぬ氣の帯を、締めつけろ。

真砂女

俳人協会編「俳句カレンダー」

昭和五十五年版の頒布について

- 一、体裁 月別十二枚綴り壁掛用。
- 一、内容 爽雨・汀女・舟月・梧逸・草田男・立子・敦・林火・友二・哲子・青・欣一・菟絲子・青邨・秋桜子(月順)の揮毫色紙、短冊のほか協会作家二百七十名の俳句掲載。
- 一、頒価 一部、一、〇〇〇円(協会渡し)
- 一、送料 一部、全国一律三〇〇円

部数	二三四部	四七部	八十部
第一	三五〇円	四二〇円	四九〇円
第二	四四〇円	五二〇円	五九〇円
第三	五三〇円	六二〇円	六九〇円

何れも荷造費一〇〇円加算いたします。十一部以上は、運送屋に委託。発送は自動車、及国鉄を使用いたします。送料及荷造費は実費加算致します。

- 一、発行予定 十月中旬
- 一、申込先 各位所属の発行所、又は当協会出版部カレンダー係

特別講座「現代俳句の歩み」第1期

現代俳句の歴史を学ぶ特別講座です。九月一日(土)十一月二十八日まで隔週水曜日 六回

会場 東京都新宿区百人町三二一八〇 俳句文学館 電話 三六七六六二二
道順 国鉄・大久保駅西口下車、徒歩四分
会費 (全期間) 五、〇〇〇円 四、五〇〇円 (一日券) 一、〇〇〇円 八〇〇円
申込先 千原 東京都新宿区百人町三二一八〇 俳句文学館 電話 三六七六六二二
社団法人 俳人協会 現代俳句の歩み 係
会費同封(一日受講は期日を明記)
協会員は姓名の肩にその旨明記の上、現金書留でお申込み下さい。受講券をお送りします。
演題 講師ならびに時間割
全期間受講者には受講証を発行します。

日	時間	講師
9月19日(土)	13時30分より16時	草間時彦
10月3日(水)	13時30分より16時	平畑静塔
10月17日(水)	13時30分より16時	堀口星眠
10月31日(水)	13時30分より16時	村松紅花
11月14日(水)	13時30分より16時	岡本 暁
11月28日(水)	13時30分より16時	清崎敏郎

昭和五十四年秋季 俳句文学館俳句講座
期間 十月十五日(土)十一月十二日(土)まで 毎週月曜日 五回
会場 東京都新宿区百人町三二一八〇 俳句文学館 電話 三六七六六二二
道順 国鉄・大久保駅西口下車、徒歩四分
定員 八〇名(申込締切 十月十日)
会費 (全期間) 四、〇〇〇円 三、五〇〇円 (一日券) 一、〇〇〇円 八〇〇円
申込先 千原 東京都新宿区百人町三二一八〇 俳句文学館 電話 三六七六六二二
社団法人 俳人協会 俳句講座係
会費同封(一日受講は期日を明記)
協会員は姓名の肩にその旨明記の上、現金書留でお申込み下さい。受講券をお送りします。
演題 講師ならびに時間割
全期間受講者には受講証を発行します。

日	時間	講師
10月15日(日)	13時30分より16時	岸田 雅彦
10月22日(日)	13時30分より16時	古賀まり子
10月29日(日)	13時30分より16時	野沢 節子
11月5日(日)	13時30分より16時	原 裕
11月12日(日)	13時30分より16時	原 裕

主催 東京大神宮 協賛 俳人協会